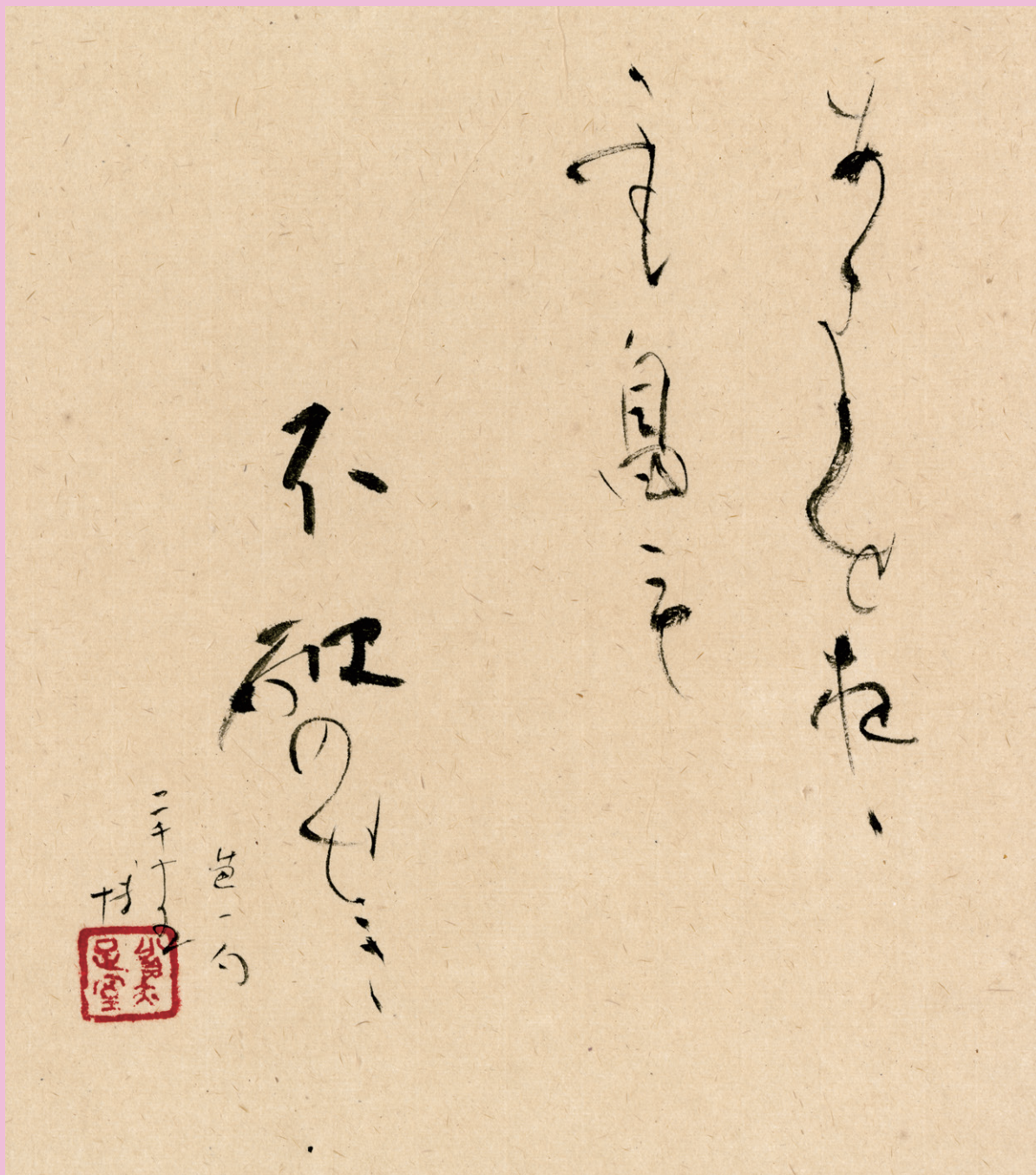


平成元年四月十日第3種郵便物認可
二〇一六年四月一日発行 毎月一回一日発行
二〇一六年四月号(通卷四三二号) 定価五〇〇円

書明



④

支部	春風花草香	行雲流水
段級	春風花草香	行雲流水
氏名	行雲流水	行雲流水
出品券		

楷書と行書

楷書と行書の大きな違いは、ひとつの点画から次の点画へ移る時

楷書は、点画を一画一画切り離す↓つながりが見えない
行書は、点画間の連絡線が目に見える↓実線で表わす

というように、行書では続ける連絡線があります。煩雑で読みにくくなってしまわないよう、どことどこを続けるか、また行書特有のルールを覚え、自然な動きのある行書が書けるよう、硬筆IIで身につけましょう。

A 楷書をもとにして考える形

- ① 続く線を書く
 - ・一字に一〜三か所、うるさくない程度に続ける
 - ・同じ方向の線が重なる場合は、最後の二画を続ける

春 ↓ 春
青 ↓ 青

② 曲がり角では丸味をつける
風 ↓ 風
白 ↓ 白
過 ↓ 過

③ 楷書で二画に分けて書くところを一気に書く

行 ↓ 行

④ はね、はらいの部分を止めたり、次の画に向かってはねてもよい

水 ↓ 氷 氷

今 ↓ 今

㊦ 行書特有の形として覚える形

① 点画を省略して続ける

鳥・鳥 ↓ 鳥

然 ↓ 然

② 筆順を変えて続けてもよい

花 ↓ 花

是 ↓ 是

注
 ・ 逾 || 愈
 ・ 然 || 燃
 同じ意味で使います。

今月の課題

級・段	出品内容	出品方法	用紙
2級～二段	㊦を一枚提出	㊦に出品券を貼る。	No. 5
三段～五段	㊦を一枚提出	㊦に出品券を貼る。	No. 5
六段～師範	㊦を一枚提出	㊦に出品券を貼る。	No. 5

㊦ 今春看又過 何日是帰年
 今年の春もまた、みるみるうちに過ぎ去っていく。いつたいつになつたら故郷に帰れることか。

㊦の要領で書く

㊦切 4月28日(木)

㊥

江 碧 鳥 逾 白 山 青 花 欲 然

川は深い緑色に澄み、鳥はますく、白く見える。

山は青々と茂り、花は燃えんとするばかりだ。

支部

級・段

氏

名

創作部Ⅱ 篆書 ① (甲骨文字を素材に)

担当 貞永大樹

新年度、創作部Ⅱ続投となりました。今年度もよろしくお願いたします。

昨年12月の編集会議で各部門の編集方針が話し合われ、このページに関して「制作のプロセスが具体的に知りたい」との意見が聞かれました。私自身もそういうことは感じていたのですが、本来自由な表現を模索するこの場で「ああしてこうして」と御託を並べることに多少なりとも抵抗がありましたので、個人的にお気に入りの作を毎月紹介することでその代わりをしていた、というわけです。

しかしそんな意見に耳を傾けないわけにもいかず、そこで閃いたのが、昨年の優秀作をお借りして、その表現技法を解説してみるという方針です。もちろん私見で勝手な技法解説をするわけで、作者の制作意図とは違った解釈をすることもかもしれませんが、その点をご容赦ください。

ここに取り上げたのは昨年4月号課題(優秀作品は6月号掲載分)からB課題(富春秋)の2点。当時の集字資料も掲載し、素材がどう味付けされたのかを比較し、みなさんの制作のヒントにしたいだければ幸いです。

なお、今年度は左記にあるように昨年と同じ素材を月替わりで提供します。制作にあたっては前年同月号もあわせて参照したうえで、昨年以上の意欲作を多数出品していただくようお願いいたします。



**昨年度
優秀作品より**
(これは課題ではありません)

「春」前半に重厚な線。後半にかけて軽快な線を交えた変化が自然で美しい。

「秋」中心にぐいっと線を寄せて画数の多い文字を密に見せる。必要な余白がちょうどよく、バランスも見事。



「富」左を重く、右が軽い。下部もやや左に寄せて形の単調さを避けた表現。

「秋」筆先が紙面に突き刺さる。2字目の軽快な調子から一転、大胆な変化を試みて成功。

今年度の素材

9月号	8月号	7月号	6月号	5月号	4月号
楷書 (六朝楷書)	隸書 (八分)	隸書 (木簡)	篆書 (小篆)	篆書 (金文)	篆書 (甲骨)
3月号	2月号	1月号	12月号	11月号	10月号
1年間のまとめ	かな	書き初め	行草書 (明末清初)	行草書 (二王)	楷書 (唐楷)

今月の素材

(ここに掲載以外の素材を使っても構いません)

無



量



壽(寿)



今月の課題

甲骨文字を素材にした創作作品を制作し、いずれか1点を出品

A	新～1級	「無量壽」から1～2字	半切 $\frac{1}{4}$ ～ $\frac{1}{2}$
B	全 員	「無量壽」の3字	半切(縦長か胴切)
C	初段以上	上記以外の漢詩句	半切以上

出典：武平一

読み：むりょうじゅ

意味：尽きない寿命。長寿。

- B～C課題は先生からの手本をもらわずに書く。
(A課題もなるべく)
- 集字資料そのままの臨書は不可。(味付けをする)
- 用紙の縦横は自由。縦書き・横書きも自由。
- C課題は作品右下に鉛筆で釈文を記入。
- 作品右下に出品券を貼り、左下に鉛筆で記名。

半切 4月28日(木)

表装の知識 ①

公募展に出品する際、書き下し(書き上がったそのまゝの状態)で出品できるものと、表装(額装・裱装または軸装等)して出品しなければならないものがあります。作品が大きくなるほど表装を求められる傾向があり、日展・読売書法展などの全国展や、県や市の美術展覧会・滋賀県書展等は表装をした状態での出品が義務づけられています。先月に紹介した紙上書道展や書き初め展などは表装をする必要がありません。また出品の際は書き下しでも、入賞したら出品者負担で表装をしなければいけないもの(書の甲子園や毎日書道展の公募やU23等)や、入賞したら主催者負担で表装してくれるもの(高大展や近江神宮全国展等)もあります。額装以外を認めない公募展が多い中で、軸装・卷子・帖(折帖)形式で出品可能なところもありますから、出品前にはしっかりと確認して、その形式に合った制作を心がけてください。(貞)